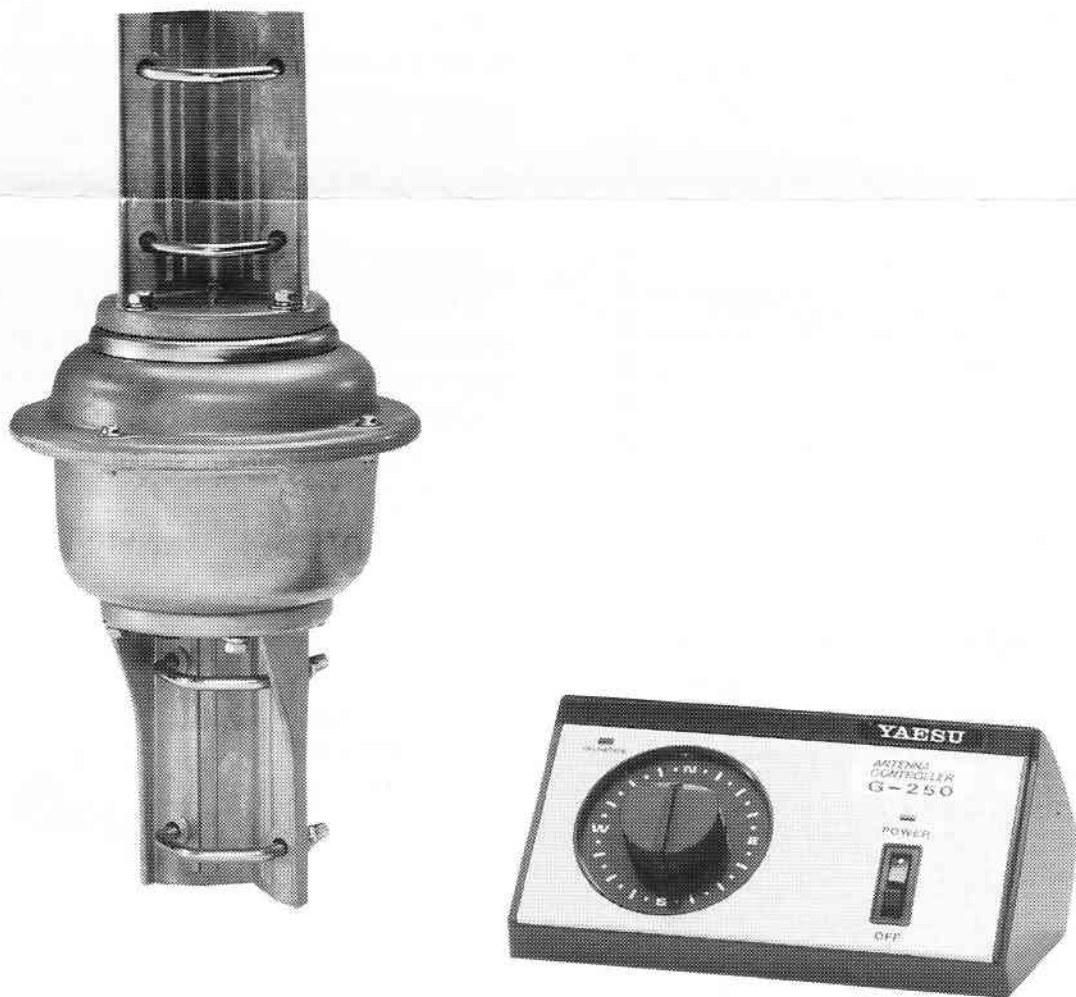

G-250

取扱説明書



株式会社バーテックススタンダード

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

定格

回 転 力：200kgf-cm
制 動 力：600kgf-cm
垂 直 荷 重：50kg 以下
適 合 マ ス ト 径：25φ～38φ
一 回 転 時 間：52 秒（50Hz 電源）
43 秒（60Hz 電源）
回 転 角 度：360°（機械的ストッパー付）
定格連続運転時間：5分
接 続 ケ ー ブ ル：0.5mm² 6 芯ケーブル（別売）
ローター寸法・重量：142φ×315mm 約1.8kg
（クランプを上下に付けた状態）
コントローラー寸法：176 (W)×85 (H)×125 (D) mm
コントローラー重量：約1.1kg
電 源 電 圧：AC 100V（50Hz/60Hz）
ローター操作電圧：AC 24V

付属品

G-250の箱の中には、下記の物が入っておりますので、ご使用になる前にお調べください。

| | |
|--------------------------|---|
| ローター | 1 |
| コントローラー | 1 |
| マストクランプ | 2 |
| U字ボルト | 4 |
| ナット M6 | 8 |
| スプリングワッシャ 6φ | 8 |
| 平ワッシャ 6φ | 8 |
| 6 角ボルト（平ワッシャ・スプリングワッシャ付） | 8 |
| ステー金具 | 2 |
| 取扱説明書 | 1 |

※ 接続ケーブル（0.5mm²×6 芯）は別途ご購入ください。

取り付ける前のチェック

実際にアンテナを取付ける前に、下記の要領でローターが正しく動作するかを、室内で確認してください。

- 0.5mm²×6 芯ケーブルを必要な長さだけ用意します。
- 図-1を参考に、穴が空いているマストクランプに接続ケーブルを通します。
- 図-2を参考に、接続ケーブルの両端を加工し、ハンダあげします。
- ローター端子板と、コントローラー端子板の同じ番号同士を、ケーブルで接続します。
- 電源プラグをコンセントに差し込みます。

ご使用上の注意点

- 運転しない場合は、必ず電源スイッチを切るようにしてください。
- ローターの取付は、端子の出ている方を下側にして取り付けて下さい。それ以外の取り付け方をすると、雨水が内部に入り故障の原因になります。
- マストクランプに使用するU字ボルトのナットは、締めすぎないようにしてください。スプリングワッシャが平らになってから、約1回転締めれば十分です。
- 運転中の急激な逆転操作は、内部機構に無理な力がかかりますのでさけてください。
- ローター内部に使用しているグリスは、モリブデングリスといい、黒色で見た目には悪いですが、半永久的に潤滑ができる非常に性能の良いグリスです。従って通常の使用方法であれば、交換することなく使用することができます。また、他のグリスとの交換はさけてください。
- 連続運転時間は、5分以内にしてください。5分以上連続運転をした場合は、15分以上運転を休止し、モーターを休ませてください。
- セットツマミを右または左いっぱいにまわしたとき、オペレーションランプが1分以上点灯したままの場合は、ローター内部のストッパーが働いていまずので、セットツマミを少しまわすか、または“調整”の項目を参照して調整を行ってください。
- セットツマミがどの場所でも1分以上オペレーションランプが点灯したままの場合は、すぐに電源スイッチを切り、接続ケーブルが断線または、ショートしていないか確認してください。

図-1

※ローター端子番号とコントローラー端子番号は、同じ番号同士を接続してください。

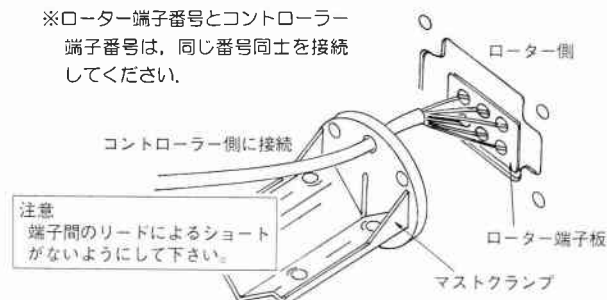


図-2



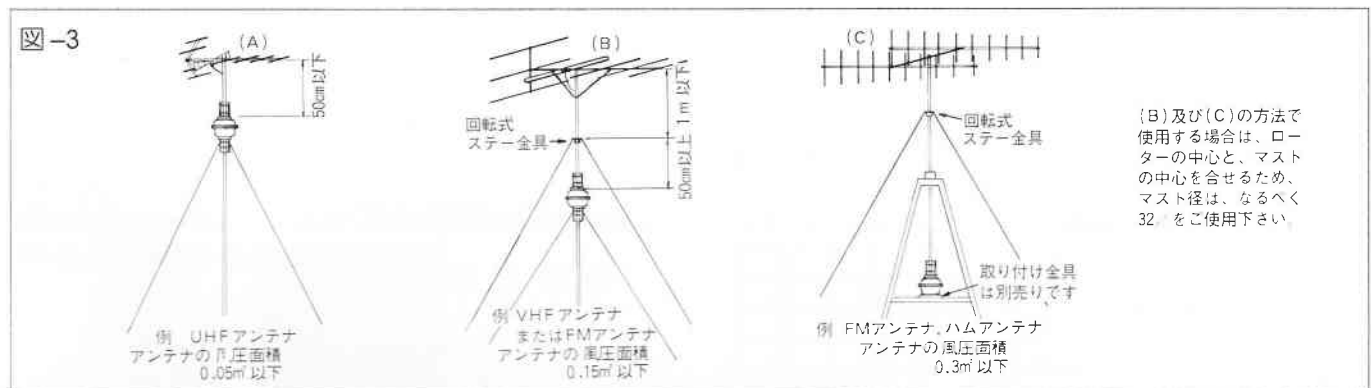
- 電源スイッチを入れると、パイロットランプが赤く点灯し、ローターがセットツマミの方向に回転して、その後自動的に停止します。ローターが回転しているときはオペレーションランプが点灯します。
- セットツマミを右または、左に回転させると、ローターはそれに追従して回転します。
ローターが回転しない場合や、ローター内部でモーターのうなる音がしているのに回転しない場合は、「配線を間違えていないか」、「接触不良になっていないか」など、配線をもう一度確かめてください。

写真-1



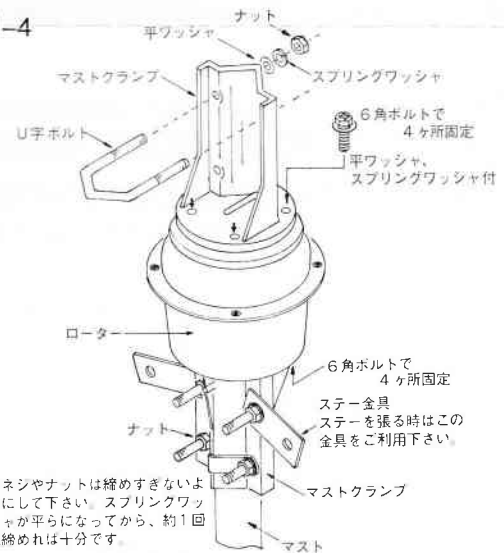
取付方法

設置方法は、ご使用になるアンテナによって異なりますので、図-3を参考にしてお選びください。ここでは、図-3(A)の方法を説明します。



- セットツマミを“N”にあわせ、ローターが停止するまで回転させた後、電源を切ります。
※北方向からアンテナが回転し、360°回転して北に戻るように設置するためです。
セットツマミを引き抜いて差し変えることにより、他の方向に基点を変更することができます。
- ローター側の端子板にケーブルがしっかりと接続されていることを確認し、下側のマストクランプ（接続ケーブルを通してマストクランプ）を六角ボルトで固定（4カ所）します。
※ケーブルを軽く引っ張り、ケーブルが抜けを確認してください。
- 上側のマストクランプを、ローター本体の上側に六角ボルトで固定（4カ所）します。
- それぞれのマストクランプにU字ボルト（U字形をしたボルト）を平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットを使用して（図-4参照）、仮止めします。
※ステー（支線）を張る場合は、ステー金具を下側のマストクランプのU字ボルトと共締めしてください（図-4参照）。
- 下側のマストクランプと、U字ボルトの間にマストを通します。
- 4箇所のナットをバランスよく締めてマストを固定します。
※ナットを締めすぎないようにしてください。スプリングワッシャが平らになってから、約1回転締めれば十分です。
- 上側のマストクランプと、U字ボルトの間にアンテナの付いたマストを通します。

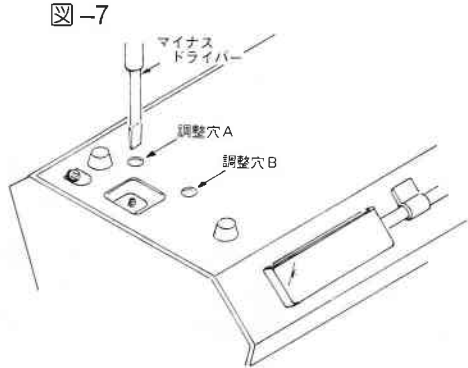
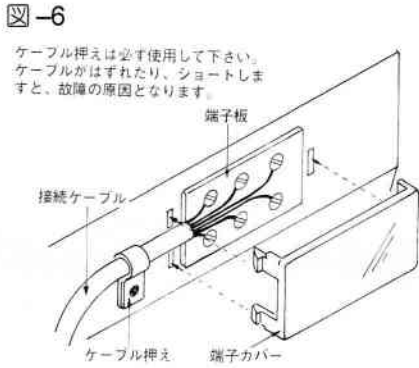
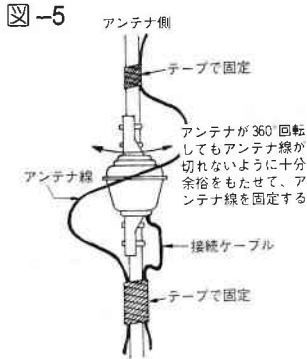
図-4



- アンテナの方向を北に合わせ（1.で他の方向に基点を変更した場合は、その方向にアンテナを合わせてください）、4箇所のナットをバランスよく締めてマストを固定します。
※ナットを締めすぎないようにしてください。スプリングワッシャが平らになってから、約1回転締めれば十分です。
- 下側のマストクランプに取り付けたステー金具に、ステー（支線）を均等角度に3～4箇所張ります。
※マストが垂直になるように、ステーを張ってください。
- アンテナ線は、アンテナが360°回転しても切れることがないように、十分に余裕をもたせてテープなどでマストに固定してください（図-5参照）。

- 11. 接続ケーブルが外れないように、テープなどでマストに固定してください（図-5 参考）。
- 12. コントローラー側の端子板にケーブルがしっかりと接続されていることを確認し、ケーブルが外れないようにケーブル押さえで固定します（図-6 参考）。
- 13. コントローラー側の端子板に、端子カバーをかぶせます（図-6 参考）。

- ❑ 故障の原因になりますので、ケーブルを接続するときは、ショートしたり外れたりしないよう、十分に注意してください。
- ❑ ローターより上側のマストをステー（支線）で固定する場合は、必ず“回転式のステー金具”を使用してください。
- ❑ ハム用屋根馬を使用する場合は、別売の金具を使用してください。



ローター端子間抵抗値

| | | | | | | |
|---|---|-------|-------|---|-----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 1 | | 0~5KΩ | 5KΩ | ∞ | ∞ | ∞ |
| 2 | | | 0~5KΩ | ∞ | ∞ | ∞ |
| 3 | | | | ∞ | ∞ | ∞ |
| 4 | | | | | 12Ω | 6Ω |
| 5 | | | | | | 6Ω |
| 6 | | | | | | |

コントローラ端子間電圧

※ローターの配線を外したとき

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

①-② : DC 約 20V ④-⑥ : AC 約 30V
 ②-③ : DC 約 20V ⑤-⑥ : AC 約 30V

④⑤⑥の電圧は、セツツマミを右または左いっぱいにもわしたとき

調整

ケーブルの抵抗値(長さや太さに関係します)の関係で、下記のような症状が現れた場合は、調整を行ってください。

- 機械的ストッパーの位置までローターが回転しても、モーターのうなる音がしてオペレーションランプが消灯しない。

調整方法

1. セツツマミを左回り(反時計方向)にまわしきります。
2. 機械的ストッパーまでローターがまわり、モーターのうなる音がしてオペレーションランプが点灯したままの場合は、コントローラー底面にある“調整穴B”のボリュームをまわし、モーターのうなり音が消えるように(オペレーションランプが消えるように)調整します(図-7 参照)。
3. ローターの回転がわかるようにローターに印を付けます。
4. セツツマミを右回り(時計方向)にまわしきります。
5. ローターが1回転して停止したとき、3. で付けた印の位置で停止するように、コントローラー底面にある“調整穴A”のボリュームをまわして調整します(図-7 参照)。この時、モーターのうなり音がなく、オペレーションランプが消えていることを確認してください。
6. 調整ができない場合は、1.~5. を何度か繰り返して調整してください。

- コントローラーのセツツマミが 360° 回転しても、ローターが360°回転せず、2°~5°程度の誤差が生じる。

調整方法

1. セツツマミを左回り(反時計方向)にまわしきります。
2. ローターが停止した後、回転がわかるようにローターに印を付けます。
3. セツツマミを右回り(時計方向)に360°回転させます。
4. ローターが1回転して停止したとき、2. で付けた印の位置で停止するように、コントローラー底面にある“調整穴A”のボリュームをまわして調整します(図-7 参照)。